学校番号	２０７

令和２年度　公民科

教科	公民	科目	政治経済	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　新政治・経済　　清水書院						
副教材等	高等学校新政治・経済ワークノート　新訂版　　清水書院						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会人として必要な政治的・経済的知識を身につける。
・日々起こる身近な問題に関心を持ち、その原因や影響について考える習慣をつくる。
・多面的に現代社会を捉え、複眼的思考ができるように学ぶ。

2　学習の到達目標

・民主主義の本質に関する理解を、広い視野の下に深めることができるようにする。
・現代社会における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解できる態度を培う。
・現代社会の諸課題について主体的に考察できるようにする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の政治・経済・国際関係への関心を高め、意欲的に課題を追究する。平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付けようとする。	政治・経済・国際関係にかかわる事柄から自主的に課題を見い出し、その本質や人間の存在・価値などについて広い視野に立つ。多面的に考察し、社会の変化や様々な考え方を適切に表現できる。	現代の政治・経済・国際関係にかかわる事柄に関する諸資料を収集する。その中で、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治・経済・国際関係に関する事柄や、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解できている。また、その知識を身に付けている。
評価方法	平常の授業態度 レポート	定期考査 ワークノート	定期考査 ワークノート	定期考査 ワークノート
	〔主題学習〕 振り返りシート レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1編　現代の政治 民主政治の基本原理	・人間と政治 ・人間と法 ・民主政治のあゆみ ・民主政治の基本原理 ・世界の政治体制	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○	a: 民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解し、積極的に授業に取り組んでいる。 b: 各国の政治体制を理解し、どのような政治体制で、どのような特徴があるかを考察している。 c:教科書・副教材・プリントなどの資料を読み解き、その情報をまとまった形で理解する。 d:法(広い意味)や憲法が成立した過程を理解し、人間にとってそのことがいかに重要な歴史的意味を持つかを把握する。	定期考査 授業態度 発問評価 レポート ワークシート
	日本国憲法と基本的人権 日本の平和主義と安全保障	・日本国憲法の成立 ・日本国憲法の基本原理 ・安全保障と日本の防衛 ・自由権的基本権 ・法の下の平等 ・社会権と参政権 ・人権の新しい展開 ・人権の国際的展開 ・裁判所の機構と権能 ・地方自治制度 ・政党政治 ・日本の選挙制度 ・現代政治の課題 ・日本の平和主義と自衛隊 ・日米安保と日本の安全保障 ・現代日本の安全保障	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 日本国憲法上、軍隊保有は認められないが、自衛のための最小限度の実力がある。今後日本が国際政治の中で、どのような活動ができ、またしなくてはならないかを理解しようとする。 b: 基本的人権の保障と、現実にある差別との問題を関連づけ、日本国内において人権を守るとはどういうことかを考察する。 基本的人権ということを主張できるようになった社会背景をしる。新しい人権がどういう歴史を経て、具体的な権利となったかを考察する。 c:第二次世界大戦後におこった戦争の概略をつかみ、その戦争の原因を各種の資料収集を通じて考察する。裁判員裁判の実際のあり方を調べ、どのように機能しているかを知る。裁判員裁判の仕組みを調べ、国民が裁判に参加する意義を考える。 d:日本における平和主義のあり方を理解する。また、新しい人権がいかに誕生したか、どのような状況の下で主張されるに至ったかを理解する。 国際社会の中では常に平和への取り組みが行われてきたが、それがいまだ現実となっていない事実を、実際の国際紛争の経緯から調べる。	定期考査 発問評価 授業態度 レポート ワークシート

2学期	第1編　現代の政治第2章 日本の政治機構	・裁判所の機構と権能 ・地方自治制度 ・政党政治 ・日本の選挙制度 ・現代政治の課題 ・国会、内閣、裁判所	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:日本の現代の政治機構をきちんと捉えるまた、近代国家の「均衡と抑制」の実態を知ろうとする。 b: 国際社会の国内政治と日本の政治との以外を把握し、民主政治に最も重要な問題を考える。 c:種々の資料から実際の選挙制度を身近なものとして理解し、主権者としての教養を深め、正しい選挙制度とは何かを考える。 d: 三権分立の必要性を理解し、今後の日本のあり方を主体的に選択できる素養を養う。	定期考査 授業態度 発問評価 レポート ワークシート
	第2編　現代の経済 現代経済の特質	・資本主義経済のしくみ ・資本主義経済の課題 ・経済主体と経済活動 ・市場経済の機能と限界 ・景気変動と経済成長 ・インフレーションとデフレーション ・財政のしくみ ・租税と国債 ・資金の循環と金融市場 ・日本銀行と金融政策 ・日本経済の歩み ・今日の日本経済 ・中小企業と農業 ・消費者問題 ・高度情報社会 ・労働問題	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較しながら、現代経済の特質について理解しようとする。 家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのかを理解しようとする。物価の変動要因を理解するとともに、物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。 b: 株式会社とはどのようなものか、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について考察する。 金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解し、その中で起きている諸問題の原因を考察する。 c: 日本の財政の現状について、巨額な公債残高が将来に及ぼす影響を考察するために、報道資料など各種の資料を収集し、調査する。また、消費者問題や高度情報化社会を、携帯電話の普及率をもとに調査する。 d: 日本の財政全般の状態を知り、消費者問題でも政府の関わりが求められるが、その費用の捻出をいかに行うべきか考える。	定期考査 授業態度 発問評価 レポート ワークシート

3学期	国民経済、国際経済と日本	・国際経済のしくみと現状 ・為替相場のしくみ ・国際協調と国際経済機関の役割 ・地域的経済統合の動き ・経済摩擦問題とグローバル化 ・国際経済の諸問題と日本の役割	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 国際経済に関する基本的な概念や理論を理解しようとする。グローバリゼーションにともなうヒト、モノの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、関心を高め理解する。 b:先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握し、日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。 c: 地域的経済統合について諸資料を収集し、利用しながら具体的に考察する。 為替相場の実際のあり方を、新聞等を通して資料を収集し、理解する。 d: 先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握しながら、日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。	定期考査 授業態度 発問評価 レポート ワークシート
	第3編 現代社会の諸課題	・少子高齢社会と社会保障 ・地域社会の変貌と住民生活 ・雇用と労働をめぐる問題 ・中小企業問題 ・農業と食料問題 ・地球環境と資源・エネルギー問題 ・国際経済格差の是正 ・人種・民族問題と地域紛争 ・国際社会における日本の立場と役割	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 現代社会の諸課題について、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな角度(視点)から考え、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。 b: 話しあい・発表・レポート・小論文などの言語活動によって自分の意見を表現する。 c: 第１編・第２編の学習の成果の上に立って、現代社会の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。 d: 対比する意見などをもとに、さまざまな意見や論調に積極的にふれ、問題点を把握する。	定期考査 授業態度 発問評価 レポート ワークシート

※ 表中の観点は、次のような内容 a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 一つの単元（題材）で abcd の全ての観点について評価する。
学習内容の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。